

5月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城 武夫

今月のテーマ

中耳炎（今回は急性中耳炎のお話をします）

はじめに

新型コロナウイルス感染者（COVC-19）の報道が日増しに増え、津市での発症も見られます皆様、3密は実行されていますか？ 子供たちはその行動特性から、守ることはなかなか難しいですが、環境の設定は我々大人がしてあげることが大切です。公園で子供たちが飛び跳ねている状況の中、親御さん達でおしゃべりはされておりませんか。今回は中耳炎のお話です。

<急性中耳炎>

耳痛、発熱、耳漏を伴う急性中耳炎と鼓膜に穿孔がなく、中耳腔（鼓室）に貯留液があり難聴の原因になる滲出性中耳炎があります。急性中耳炎は3歳以下の乳幼児に多く、1歳までに60%、3歳までに80%近くの子供が少なくとも1回は罹ると言われています。原因菌（起炎菌）は細菌（肺炎球菌、インフルエンザ菌など）が50%、細菌＋ウイルスが40%、ウイルスのみが9%、細菌、ウイルスの両方ともないのが0.9%というデータを提示しておられる先生がみえます。

なお、肺炎球菌はワクチンの普及で減少しましたが、ヒブワクチンはインフルエンザb菌（細菌性髄膜炎の起炎菌の一種）の予防には効果的であるものの、上気道炎、中耳炎の起炎菌としてのインフルエンザ菌には有効ではありません。

<症 状>

耳 痛：中耳腔（鼓室）に液が溜まり、鼓膜が炎症を起こし赤くなり、耳がズキズキ痛みます。

発 熱：熱がでることが多いですが、微熱～38℃以上といろいろです。

耳閉感：液が溜まり、耳がふさがった感じや耳がヘンとか訴えます。

耳 漏：中耳腔（鼓室）溜まった膿は鼓膜が少し破れて出てきます。耳だれとも言います。

難 聴：中耳腔（鼓室）に液が溜まり振動が悪くなり、音が十分に伝わらなくなり、聞こえが悪くなります。乳幼児では上手く表現できませんが、小学生以上では訴えます。

<治 療>

年齢（2歳未満とそれ以上）、臨床症状（耳痛、発熱、啼泣・不機嫌）、鼓膜所見を参考に点数化（急性中耳炎スコア）し、軽症、中等症、重症に分け、治療方針（抗生剤を選択し投与、鼓膜切開）を作ります。反復性、遷延性、難治性中耳炎では、薬剤耐性やバイオフィーム形成を考慮した治療、チューブ留置、漢方薬などを選択することになります。

<予 防>

かぜ（上気道炎）、栄養のかたより、おしゃぶり、生活環境（集団生活、家族の喫煙など）が中耳炎になるきっかけやリスクを増やすと言われています。乳児の免疫学的な考えからも母乳育児が大切です。手洗い・うがい・鼻かみを心がけましょう。

